



丹後地域で在来タンポポを発見した場所



丹後で発見
日本の
タンポポ

と、木々やコンクリートがあるところには在来タンポポがないことに気付いた。つまり、山間部の集落、まさに里山と言われる環境に多く咲いていたのだ。なぜだろうか。その答えの1つは在来タンポポが教えてくれた。在来タンポポは特に多くの光を必要とする植物である。木が少なくあるところは地表に届く光が少ないため、生育が難しい。さらに大規模な工事によって更地となった場所には、種子を飛ばす能力が高く、

発芽もしやすい外来種が入り込みやすい。だから、在来タンポポは、適度に人が手を加え続けている環境に多く生育していると考えられる。家と学校を行き来しているだけでは気づけなかった。でも、自分の興味を越え、タンポポの写真を撮り、生育していた地名を記録していると、この景色は丹後にしかないのだとわかった。タンポポの目線になって丹後を見つめた時間は、私の宝物だ。



与謝地区でカンサイタンポポを見つけて喜ぶフィールド探究部のメンバー



第3話

丹POPPO女子が見つけたこと — 日常の中にある特別な景色 —

丹後を探って究めよう

タンポポ。春に咲き、綿毛を飛ばす。誰もが見たことのある身近な雑草……。最初はそのくらいの認識だった。けれども、フィールド探究部に入部して、タンポポには在来種と外来種があると教えてもらったとき、秘密を知ったような気がして嬉しかった。タンポポを横から見たとき、日本に昔からあるものは花の下の部分が反り返っておらず、反り返っているのは外国から入ってきたものである。「よく見かける植物なのに知らないこともあるものだ」と思いつつ、私は行く先々でタンポポを見つけては在来種か外来種かを確か

在来タンポポ7種を確認

認していった。しかし、どれも花の下は反り返っていた。私が初めて在来タンポポを見たのは2年ほど前だ。部活動で里山に訪れたとき、在来種であるケンサキタンポポに出会った。その瞬間、私の胸は高鳴った。透き通るような淡い黄色の花びらに、大きくて柔らかい

在来種と外来種のちがい



在来種 外来種

花の下が反り返っていないのが日本のタンポポ(左)で、反り返っているのが外国のタンポポ(右)。

葉。タンポポだけど、そうとは思えない不思議な感覚だった。「もっと在来タンポポを知りたい!」と思った。



見慣れた場所から丹後全域へと範囲を広げ、在来タンポポを探した。2年間の調査の結果、ケンサキに加え、ヤマザト、キビシロ、クシバ、シロバナ、カンサイ、トウカイの合計7種の在来タンポポを発見。そしてそれらが咲いている場所の風景や雰囲気までも全身で感じ取った。ふ



7月12日、タンポポ探究の講話を頼まれ、私は卒業した小学校に向かった。内容を分かりやすく説明できるか不安だったが、教室で話し始めるも母校の後輩たちが真剣に聞いてくれていて、とても嬉しかった。後日、6年生からお手紙が届いた。「タンポポが7種類あると初めて知った」という感想に始まり、「在来種のタンポポを守りたい」「色々な経験をして魅力を伝えていきたい」などの意見が寄せられていた。タンポポの知識や私の経験を理解するだけでなく、6年生はそれを参考に、これからどんな行動をしていくべきかを考えてくれていた。

タンポポ目線で宝探し

宮津天橋高校宮津学舎3年 藤本和奏 (橋立中学校出身)



今月のライター

丹後の見慣れた景色の中で少し目を凝らすと、心を動かされる世界が見える。私たちフィールド探究部のメンバーはそれぞれの目線で好きなことを探し、究めることで、自分にとっての「特別な丹後」を見つけていった。それが「川」であり、「スタディーツアー(身近な産業)」であり、「巨樹」である。そして私は「タンポポ」だった。あなたも探してみませんか? 自分にとっての特別な丹後を。

次回は「丹後の森 3000本の巨樹を訪ねて」です。お楽しみに!

